

原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。
原村で暮らす、おもしろくて素敵なお話を紹介します。



「デザイナー/クリエイティブディレクター」 菊池 大介さん (33)

原村生まれ原村育ち。中新田のプロコリー農家の長男。京都の大学に進学し、在学中に自ら起業をする。卒業後は生まれ育った諏訪地域を拠点のひとつに据え、デザイン会社の経営や、母校の大学での非常勤講師、大好きな山遊びや宇宙に繋がる仕事をしたりと多方面で活躍されている。

原村で生まれ育った菊池さん。森に入っ
て秘密基地を作ったり、枝に糸を垂らし
て沢で釣りをしたりと、幼少期から自然
の中で過ごしていた。自分で考えて自分
の責任で遊ぶのが楽しかったと振り返る。
また、新しいものの好きの父親の影響で
小学生のころからパソコンに触れ、ネッ
ト空間で遠く離れた見知らぬ人と繋がれ
ることの面白さを知り、夢中になった。
星や宇宙にも興味を持っていた菊池さ
んは、八ヶ岳自然文化園の展示であるも
のに出会ったという。それは昭和52年に
打ち上げられた2機のボイジャー探査機
に搭載された『ボイジャーのゴールデン
レコード』という円盤を紹介している展
示物で、そのレコードには地球の生命や
文化の存在を伝える音や画像が収められ
ており、地球外知的生命体や未来の人類
が見つけて解説してくれることを期待し
て作られたものだった。そこに描かれた
記号を見て「宇宙のような遠くにも情報
が伝わることに衝撃を受けた。」と話して
くれ、その時に『言葉を用いない視覚的
表現』にも興味を持ったという。

「遠く離れた人と繋がること」、「情報を
伝えること」をキーワードに、高校では
情報技術を、大学では情報デザインを学
んだ。大学在学中に独立開業しようと決
め、現在はデザイナー、クリエイティブ
ディレクターとして、地元も拠点に含め
た活動を多岐に渡りされている。
原村で生まれ育ったことを大切にして
いる菊池さん。原村という農村で農家の
長男として生まれ、たったひとつの自分
のルーツを何か判断するときの基準にし
ているという。農業を継ぐのもひとつか
もしれないし、自分が畑に立つ以外にも
デザインを通して農と関われないかと考
えていると話してくれた。
「自分は声を広く伝える拡声器みたいな
ものと思ってる。原村には能力を持った
プレイヤーが沢山いる。その人がどんな
ことを想い、ものを作っているのか。そ
の人の持つ『らしさ』をしっかりと伝えら
れるようになりたい。」と菊池さん。
個性を魅力ある形で引き出し、広く伝
えようとする菊池さんの胸には、縁する
人を大事にしようとする熱い心が脈打つ。

小さな村から発した点が

遠くの誰かに伝わり繋がっていくこと

